

男女共同参画社会における男性のメンタルヘルス対策の課題 ～男性問題の現状と背景～

◆講師：多賀 太 先生 関西大学文学部教授

◆日時：2020年11月15日（日）14時～17時15分

◆開催方法：ZOOMによる開催（但し、募集人員30名）

*申し込み受付者に、後日、ミーティングID、パスワードを送付します。単位が必要な方は、終了後簡単な受講報告の提出をお願いします。

◆受講料：会員2,000円、一般3,000円

◆単位：2単位

バブル崩壊後、年間三万人以上だった我が国の自殺者数は、「自殺対策基本法」をはじめとする様々な施策によって、近年ようやく減少傾向にあるものの、依然として他の先進国と比べて高い自殺率で、また男女差も大きいです。その背景には、男性の「性役割意識」が関係しているとの指摘もあり、いわゆる「男性学」（男性問題に関する研究）の知見が、パワハラ防止、DV防止など、男性のメンタルヘルス対策に活かされています。しかしながら、コロナ禍の中で、家事労働などでは、相変わらず女性の負担の方が多いのではないかとされており、女性活躍が叫ばれてもなかなか改善が進まない状況が続いています。なぜ、なかなか変わらないのか。男性優位の社会は男性にとっても問題が多いという多賀先生のご指摘は、男女共同参画社会を築いていく上で、多くの示唆に富んでいます。一緒に学んでまいりましょう。

【講師からのメッセージ】

日本は、国際社会のなかでもとりわけ男女の地位格差が大きい男性優位の社会です。このような社会は、女性が活躍する機会を狭めるだけでなく、男性を過剰な競争や成功へと駆り立てる社会でもあります。こうした男性への社会的圧力は、男性の生活の質や心身の健康を低下させる一方で、その解消の矛先が外に向かえば、女性やより弱い立場の男性への暴力を引き起こしかねません。こうした男性問題の現状や背景について理解を深め、皆様の相談業務に少しでも役に立ていただければ幸いです。

～講師プロフィール～

◆1990年代半ばから、九州や関西で男性の立場から男女共同参画を進める市民活動に参加。2016年、女性に対する暴力防止の啓発に男性主体で取り組む「一般社団法人ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン」を設立し共同代表に。これまでに、国立女性教育会館運営委員や大阪市、堺市、奈良県、京都市などの男女共同参画審議会委員を歴任。主な著書に『男子問題の時代？』（学文社）、『男性の非暴力宣言』（岩波書店、共著）、『揺らぐサラリーマン生活』（ミネルヴァ書房、編著）など。